



園だより 1 月

「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り 主の栄光はあなたの上に輝く。」
イザヤ書 60 章 1 節

「えがおあふれる いちねんになりますように」



今年もこのご挨拶で新年が穏やかに明けましたこと、心から感謝致しております。コロナで終わりコロナと共に始まった2021年、皆様それぞれに様々な思いを持ち、例年とは違うお正月をお過ごしのご家庭も多かったのではないのでしょうか。

どのような状況の中にあっても、その時だからこそその気付きであったり、考えさせられることであったり、その状況だからこそ心に沁みることであったりと、感じられる沢山の恵みは確かに備えられています。今年もその恵みを覚えつつ豊かな日々を過ごして参りましょう。

7日に緊急事態宣言が発出されました。そのような中で始まる3学期。1, 2学期と同様に、出来得る限り子どもたちにとって例年と変わらない園生活の日常を守りたいと願っております。そのためには、改めて新型コロナウイルスに対する対応の徹底が必須であると思います。ニュースなどでは「緊急事態宣言が出て何事も変わりません。今までもしていたから・・・」「自分の周りに罹った人いないから・・・」の声が聞かれます。私はそのような声に疑問を感じます。確かに、4月に出された緊急事態宣言とは違い、今回の宣言は私たちの生活そのものにあまり影響がないように思われますが、重要なのは一人ひとりがどの様に捉えるかではないのでしょうか。コロナ禍の日常生活が続く中、適応する能力がありそれに対応しているが故に、コロナ禍での日常を受け入れ自己判断の元、新しい生活習慣などに対する気持ちが少しずつ緩やかになっている様子が見えがえします。目に見える様々な状況を見えない個々の心でどの様に捉えどの様に行動で表していくのか。その心持ちが重要なのではと思います。

今日から始まった3学期の園生活。幼稚園に関わる人々みんなですべて改めて危機感を持って捉え対応し過ごして参りましょう。その危機感を持ち得たうえで、様々を回避しつつ子どもたちにとっての穏やかな幼稚園での日々、子どもたちの「今」を大切に大切に考え、守っていきたくて思っております。

とても短い3学期ですが、年度のまとめの学期です。コロナ禍の中でも逞しく伸びやかに成長してきている子どもたち。その育みを次年度に繋げるためにも、今の状況を踏まえつつ、柔軟に最善の環境を整え、子どもたちと共に過ごしてまいりたいと願います。ご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子

